

環境・農水常任委員会 県外行政調査

1 調査日 平成 30 年 11 月 5 日（月）～7 日（水）

2 調査の概要

11 月 5 日（月）

（1）ハーブ農園ペザン（石川県津幡町）

調査内容：農福連携事業について

同農園は、15 年以上農薬化学肥料不使用の畑で、50 種類以上のハーブを栽培し、平成 28 年には福祉事業所リハスファームと共に農福連携を開始された。農家と就労支援施設が共同で運営している全国的にも珍しい事例であり、農業の担い手不足の解消だけでなく、農業の質を高めることにも成果を上げている。

本県においては今年度、福祉施設や農業法人など 6 事業所を初めて農福連携のモデル事業所に認定するなど農福連携の推進に取り組んでおり、農福連携の先進事例として、同農園の取り組みについて調査を行った。



（2）羽咋市（石川県羽咋市） はくいし

調査内容：世界農業遺産（能登の里山里海）について

羽咋市の自然栽培について

同市の神子原地区は、米づくりが盛んで自然栽培にも取り組んでおり、同市を含む能登半島の 4 市 5 町に広がる「能登の里山里海」が、平成 23 年 6 月、新潟県佐渡市の「トキと共生する佐渡の里山」とともに、日本で初めて世界農業遺産に認定された。

本県においても、平成 31 年度の世界農業遺産認定を目指して現在取り組みを進めていることから、世界農業遺産について調査を行った。

また、同市では自然栽培として、農薬、化学肥料、有機肥料、除草剤を使用せず、土壌を自然の状態に整え自然の力で作物を栽培する農法を導入している。羽咋市と JA はくいは、それぞれが連携のもと、はくい式自然栽培をブランドとして確立し、全国に広げることを目指している。

本県においては、環境こだわり農業の深化として、オーガニック農業の取り組み拡大を目指していることから、参考とするため同市の自然栽培について調査を行った。



11月6日（火）

（3）富山県森林研究所（富山県立山町）

調査内容：無花粉スギの開発について

魚津採種園（苗畑）（富山県魚津市）

調査内容：無花粉スギの苗木生産について

同研究所では、水と緑を育み県民生活の安全に貢献する森づくりを推進するために、様々な調査、研究を行っており、優良無花粉スギ「立山 森の輝き」を開発し、普及推進事業を進めている。

また、同園では、この優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の種子生産や、苗木生産を行っている。

本県においても、環境保全のための森林づくりのあり方に関する調査研究等を行っており、今後の参考とするため無花粉スギの開発や苗木生産について調査を行った。



（4）魚津桃山運動公園（富山県魚津市）

調査内容：第 68 回全国植樹祭の開催について

富山県では、平成 29 年 5 月に第 68 回全国植樹祭を魚津桃山運動公園で開催し、県民参加による健全な森づくりの一層の推進と森林資源の循環利用の促進による林業再生を図るとともに、森づくりと海づくりを一体的にとらえ、豊かな自然を守り育てる県民の活発な実践活動等を全国に発信した。

本県においても平成 33 年の第 72 回全国植樹祭が決定しており、実施に向けた準備を進めているところであり、今後の参考とするため第 68 回全国植樹祭の開催について調査を行った。



11月7日（水）

（5）黒部市黒部浄化センター（富山県黒部市）

調査内容：PFI事業による下水道汚泥のバイオマスエネルギー利活用について

同センターは、PFI事業により整備された下水汚泥、農業集落排水汚泥、浄化槽汚泥、デイス
ポーザ由来生ごみと食品残さ（コーヒーかす）を混合処理する施設で、化石燃料を使わず、バイオ
ガスによるボイラー熱で汚泥を乾燥・燃料化できる自己完結型システムを採用し、余ったバイオガ
スは、マイクロガスタービンの燃料として発電し、場内の電力として利用している。

本県の下水道事業において、今後の参考とするため当該施設について調査を行った。

